

目次

| | |
|-------------------------|----|
| 口絵 | |
| 刊行のあいさつ | i |
| 凡例 | ii |
| 目次 | iv |
| 総説 | 1 |
| 第一編 原始 | |
| 第一章 相馬の旧石器時代 | |
| 第一節 旧石器時代の始まり | |
| 一 人類の進化 | 14 |
| 二 石器からの変遷 | 16 |
| 第二節 最終氷期の古環境とくらし | |
| 一 氷河時代と最終氷期 | 19 |
| 二 最終氷期の植物相と動物相 | 20 |
| 第三節 後期旧石器時代の様相 | |
| 一 日本での旧石器時代研究 | 22 |
| 二 後期旧石器時代の石器群 | 23 |
| 三 相馬地域の旧石器時代と周辺遺跡 | 25 |

| | |
|------------------------------|-----|
| 第二章 相馬の縄文時代 | |
| 第一節 縄文時代のはじまりと環境変化 | |
| 一 海岸線の変化 | 32 |
| 二 動植物の変化 | 35 |
| 第二節 縄文時代の時期区分と相馬地域の土器 | |
| 一 縄文土器と時期区分 | 37 |
| 二 相馬地域の縄文土器の変遷 | 40 |
| 第三節 縄文人のくらし | |
| 一 縄文人のすまい | 66 |
| 二 相馬地域の縄文住居の変遷 | 67 |
| 三 縄文人の食べものと活動の時節 | 74 |
| 第四節 縄文人のさまざまな道具 | |
| 一 石製の道具類 | 78 |
| 二 相馬地域の縄文石器の変遷 | 79 |
| 三 土製・石製・骨角製の漁労具と装身具 | 95 |
| 四 縄文人の工芸品 | 101 |
| 第五節 縄文人の精神文化 | 102 |
| 第三章 相馬の弥生時代 | |
| 第一節 弥生時代のはじまり | 106 |
| 第二節 弥生時代の時期区分と相馬地域の土器 | |
| 一 弥生時代の時期区分 | 107 |
| 二 相馬地域の弥生土器の変遷 | 111 |

第三節 稲作のひろがり……………117

第四節 弥生時代のさまざまな道具……………119

一 石製道具……………120

二 相馬地域の弥生石器の変遷……………120

三 木製道具……………127

四 金属製の道具……………130

第五節 弥生時代のくらし

一 弥生時代の住まい……………132

二 弥生時代のお墓……………133

第二編 古代

第一章 相馬の古墳時代

第一節 古墳時代社会の成立前夜

一 古代の東アジア世界……………140

二 弥生時代社会の発展……………141

三 中国の史書に見る倭と倭人の記録……………144

第二節 古墳と古墳時代の区分

一 古墳が造られた時代……………147

二 古墳の構造と副葬品……………148

第三節 古墳時代の社会と文化

一 大和政権の支配の仕組み……………153

二 豪族と農民のくらし……………155

第四節 古墳時代の社会の発展

一 古墳時代の始まり……………160

二 前期の古墳と大和政権……………161

三 中期の古墳と大和政権の発展……………168

四 後期の古墳と古墳時代社会の変質……………176

五 前方後円墳の終焉と横穴墓の広まり……………187

第五節 国造制から律令制へ

一 国造制と東北の国造たち……………194

二 浮田国造とその墓……………196

第二章 相馬の飛鳥時代

— 律令国家の形成と南奥 —

第一節 律令国家の黎明

一 大化の改新と東国国司の派遣……………202

二 孝徳朝の天下立評……………203

三 東国における評の成立……………204

第二節 考古学からみた南奥の立評

一 白河評と石城評……………209

二 宇多評・行方評・標葉評の成立……………212

三 三評の歴史的支配……………216

四 評の分割の背景……………218

第三節 初期の東北政策

一 斉明の王宮と対外政策……………220

| | |
|------------------------|-----|
| 二 版図の拡大と外征 | 222 |
| 三 初期の城柵・官衙―郡山官衙遺跡群 | 223 |
| 四 移民と集落 | 227 |
| 第四節 律令国家の確立と陸奥国 | |
| 一 外交・内政の危機と律令国家の確立 | 230 |
| 二 初期陸奥国府 | 232 |
| 三 陸奥国における評衡の成立 | 234 |
| 第五節 仏教の受容と東北 | |
| 一 仏教の伝来 | 238 |
| 二 東北における仏教の受容 | 240 |
| 三 外敵調伏と鎮護国家 | 243 |
| 第六節 古代国家の形成と手工業 | |
| 一 飛鳥時代の窯業生産 | 246 |
| 二 善光寺遺跡の窯業生産 | 247 |
| 三 製鉄の導入 | 248 |
| 第三章 相馬の奈良時代 | |
| ―南奥海道地域と律令国家― | |
| 第一節 奈良時代の社会 | |
| 一 飛鳥時代から奈良時代へ―律令国家の完成― | 254 |
| 二 律令制による支配 | 256 |
| 第二節 奈良時代の地方制度 | |
| 一 地方行政機構とその変遷 | 260 |

| | |
|------------------------|-----|
| 二 国・郡の役人と役所 | 262 |
| 三 郡の役所の具体像 | 266 |
| 四 郡における支配の諸相―郡衙の移転と分郡― | 275 |
| 第三節 陸奥国の軍団 | |
| 一 軍団兵士制 | 280 |
| 二 南奥の軍団 | 281 |
| 第四節 南奥海道地域の交通 | |
| 一 古代の交通制度 | 285 |
| 二 古代交通の研究 | 286 |
| 三 陸奥国における交通路の変遷 | 288 |
| 四 南奥海道地域の交通 | 289 |
| 五 陸奥国の関 | 294 |
| 第五節 奈良時代の東北政策 | |
| 一 奈良時代前半の東北政策 | 298 |
| 二 对蝦夷三十八年戦争 | 305 |
| 第六節 仏教のひろがり | |
| 一 郡を代表する寺院 | 307 |
| 二 郡内第二位の寺 | 311 |
| 三 陸奥国分寺の造営と産金 | 314 |
| 第七節 律令国家と地方豪族 | |
| 一 宇多郡の豪族 | 318 |
| 二 郡司職をめぐる争い | 321 |

第八節 相馬地方の古代製鉄

- 一 相馬地方の古代製鉄……………324
- 二 製鉄炉の変遷……………325
- 三 製鉄の画期とその背景……………327

第四章 相馬の平安時代

— 古代国家の変容と南奥 —

第一節 平安京の時代

- 一 平安時代のはじまり……………332
- 二 格式の時代……………332

第二節 律令国家と水上交通

- 一 律令支配と水上交通……………335
- 二 南奥沿岸地域と海上交通……………335
- 三 史料にみえる東北の海上交通……………336
- 四 郡津の機能……………337
- 五 交易と水運……………339
- 六 宇多郡の活動……………340

第三節 仏教と神祇信仰の展開

- 一 平安時代の仏教……………342
- 二 平安時代の新しい仏教……………346
- 三 霊山寺の特質……………348
- 四 南奥の山林寺院……………351
- 五 神祇信仰と陸奥国……………354

第四節 手工業生産の画期と背景

- 一 製鉄遺跡の推移……………358
- 二 窯業遺跡の推移……………361
- 三 技術の普及と地域の発展……………363

第五節 災害と古代史

- 一 古代史上の災害……………365
- 二 貞観地震・津波の被害……………368
- 三 貞観地震からの復興……………372
- 四 南奥沿岸地域の被災と復旧・復興状況をめぐって……………374

第六節 宇多郡の古代集落

- 一 竪穴建物の消長からみた集落の動向……………379
- 二 萩平遺跡の集落……………382
- 三 集落の消失……………383

第七節 古代末期の地方社会

- 一 変わりゆく古代国家……………385
- 二 政治の場の変化……………386
- 三 古代末期の南奥……………388
- 四 天慶の乱と武士の登場—古代から中世へ—……………390

第三編 中世

第一章 平安末・鎌倉時代の相馬氏

第一節 相馬氏の展開と宇多郡

一 相馬氏の源流と海道地域……………396

二 鎌倉幕府の成立と相馬氏……………399

第二節 鎌倉幕府政治と相馬氏

一 幕政初期の合戦と相馬氏……………403

二 承久の乱と相馬氏……………406

三 幕府儀礼と相馬氏……………408

第三節 相馬氏一族の婚姻関係

第四節 相馬氏の所領と奥州の展開

第五節 鎌倉幕府滅亡と相馬氏

427 422 417 408 406 403 399 396

第二章 南北朝動乱の中の相馬氏と海道地域

第一節 相馬氏・海道の武士たちと北畠顕家の政權

一 一四世紀海道の様相……………430

二 北畠顕家の多賀国府政權……………443

第二節 対峙する相馬氏と白河結城氏

一 海道北部をめぐる対抗関係……………453

二 海道を行き交う軍勢―南北朝動乱の始まり―……………463

第三節 相馬氏と多賀国府のゆくえ

一 多賀国府をめぐる興亡と北畠顕信の没落……………483

483 463 453 443 430

二 相馬氏と分立する足利氏一族……………493

第三章 室町時代の相馬氏と海道地域

第一節 鎌倉府体制と海道五郡一揆

一 奥羽と鎌倉府……………502

二 海道五郡一揆の形成……………507

第二節 京・鎌倉の対立と海道五郡

一 上杉禪秀の乱と南奥……………513

二 新田岩松氏滅亡と相馬氏の千倉荘領有……………516

三 正長・永享年間の南奥争乱と相馬氏……………519

四 相馬胤弘と行方郡・千倉荘……………522

第三節 相馬高胤・盛胤と相馬領

一 相馬高胤の行方郡統一……………527

二 相馬氏・岩城氏の勢力拡大……………533

三 相馬氏の領域権力化と標葉氏の滅亡……………537

第四章 戦国大名相馬氏と宇多荘

第一節 戦国大名相馬氏四代

一 大膳大夫盛胤……………544

二 讃岐守顕胤……………549

三 弾正大弼盛胤……………555

四 長門守義胤……………561

561 555 549 544

第二節 相馬領国の構造

- 一 領域の支配 568
- 二 家中の構成 573

第三節 中村と黒木

- 一 中村氏と黒木氏 577
- 二 中村城・黒木城・田中城と戦国大名相馬氏 581

第五章 近世の幕開けと相馬氏

第一節 織豊政権と東国・相馬氏

- 一 織田信長と東国 586
 - 二 徳川家康・豊臣秀吉と「関東惣無事」 590
 - 三 「関東奥兩國惣無事」と相馬氏 592
 - 四 奥羽への介入を強める豊臣政権 595
- ### 第二節 豊臣大名相馬氏の誕生
- 一 小田原合戦と相馬氏 600
 - 二 奥羽仕置の衝撃 602
 - 三 止まぬ混乱から奥羽再仕置へ 605
 - 四 朝鮮出兵と奥羽社会 609

第三節 徳川氏の勢力拡大と相馬氏

- 一 秀吉の死・家康の台頭と関ヶ原前夜 614
- 二 「北の関ヶ原」と相馬氏 616
- 三 戦後処理をめぐる混乱 620
- 四 相馬中村藩の誕生 623

第四節 奥羽における織豊系城郭の誕生と相馬氏

- 一 奥羽仕置と織豊系城郭 627
- 二 関ヶ原合戦前後の築城ラッシュ 630
- 三 相馬氏の居城の変遷―小高城・村上城・牛越城― 632
- 四 中村城の築城とその特徴 636

第六章 中世の社会と信仰・宗教

第一節 村と在家

- 一 中世前期の村と在家 642
- 二 中世後期の村と在家 645

第二節 中世の信仰と宗教

- 一 中世の信仰と宗教・概観 654
- 二 相馬氏をめぐる信仰・宗教 665
- 三 宇多荘における信仰・宗教 676

- 関係者一覧 686